



日本湿地学会第2回大会報告

2010年9月4日、法政大学外濠校舎において、日本湿地学会第2回大会が以下のプログラムで開催された。

一般口頭発表<第一部>

1. 「釧路湿原におけるハンノキ林域拡大について」

橋治国（北海道水文気候研究所，環境クリエイト），木内伸洋（北海道工業大学），鳴海啓太（東芝），
口町紗英子（茨城），中村信哉（ぎょれん），永礼英明（岡山大学），加藤邦彦（北海道農業研究センター），
辰巳健一（ドーコン）

2. 「釧路湿原におけるハンノキの形態と冠水環境への適応について」

矢野雅昭・水垣滋・林田寿文・村上泰啓（（独）寒地土木研究所）

3. 「北海道ウトナイ湖における高茎湿生草原の群落種組成と分布環境」

矢部和夫（札幌市立大学），種村直子（東京都江戸川区役所）

4. 「ヨシ濾床伏流式人工湿地による酪農パーラー排水の浄化」

井上京（北海道大学）

5. 「静岡県における棚田の景観と生物相の再生」

下田路子（富士常葉大学），稲垣栄洋（静岡県農林技術研究所）

6. 「再生氾濫原アザメの瀬の有する生態的機能に関する研究報告」

林博徳・島谷幸宏・小崎拳（九州大学），辻本陽琢（国土交通省港湾局），池松伸也（九州大学）

7. 「ラムサール条約登録5年目を迎えた宍道湖・中海」

國井秀伸（島根大学）

8. 「日本における wetland としてのカキ礁生態系の現状と価値」

山下博由（貝類多様性研究所），森敬介（国立水俣病総合研究センター），佐藤慎一（東北大学総合学術
博物館），池口明子（横浜国立大学），伊藤恵子（日本湿地ネットワーク），牛野くみ子（千葉県自然保
護連合）

特別セッション「生物多様性と湿地」

パネリスト（発表順・敬称略）：

草刈秀紀（WWF ジャパン）

石原 博（経団連自然保護協議会企画部会長，住友信託銀行企画部社会活動統括室審議役）

渡辺綱男（環境省自然環境局審議官）

小栗有子（鹿児島大学生涯学習教育研究センター准教授）

島谷幸宏（九州大学工学部教授，日本湿地学会副会長）

コーディネーター：

辻井達一（北海道環境財団理事長，日本湿地学会会長）

一般口頭発表<第二部>

9. 「北海道のラムサール湿地の現状と課題」

牛山克巳（宮島沼水鳥・湿地センター）

10. 「環境教育における法教育の実施について」

中村有利子（龍谷大学）

11. 「『湿地の文化と技術』 インベントリー作成の中間報告（その2）」
笹川孝一（法政大学），辻井達一・佐々木美貴（日本国際湿地保全連合），名執芳博（元国連大学上席研究員），安藤元一（東京農業大学）
12. 「干潟生物の市民参加型調査手法と研修会」
佐々木美貴・中川雅博（日本国際湿地保全連合），鈴木孝男（東北大学）
13. 「韓国朝鮮における干潟の民俗と表象」
宇田川飛鳥（慶應義塾大学）
14. 「インドネシア中部カリマンタン州の熱帯泥炭地における地下水位変動と泥炭火災」
佐藤 空（北海道大学）
15. 「自動撮影調査から見た東アジアのフライウエイ湿地における陸生哺乳類」
安藤元一（東京農業大学）
16. 「Dugong conservation and human land use in Davao Gulf, Mindanao, Philippines」
Emily S. Antonio and Hiroshi Mukai（Kyoto University）

大会に先立って開催された理事会では，学会と大会運営に関する事項が検討され，学会誌に用いる写真等を会員の皆様から募集していくこと，学会誌のバックナンバーは一冊当たりの価格を一般（非会員）2,000円，会員1,500円として販売していくこと，団体会員募集に向けて細則と案内文を作成することなどが確認された。

大会当日に行われた総会では，2009年度決算，2010年度予算案について理事会で検討した内容の報告があり，質疑応答の後承認された。次に2012年度以降の役員改選を議題とし，学会基盤がまだ充分ではないため現行体制で続投したい意向が事務局より示された。また，その可能性も含め，選挙規定検討委員会を設け検討すること，選挙規定検討委員会は，場合によっては選挙管理委員会に移行することもありうる事が確認された。次年度以降の開催地については，2011年度大会は9月上旬に九州大学，2012年度大会は，札幌，あるいは東京か大阪等，2013年度大会は，ラムサール条約登録湿地片野鴨池を有する石川県加賀市との協力で開催する可能性を検討することが確認された。（その後，第3回大会は佐賀県武雄市での開催に至り，第4回大会は東京農業大学で開催される予定である。）

牛山克巳（日本湿地学会事務局長代理）